

---

# 臭いにおいの女

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

臭いにおいの女

### 【Nコード】

N6512J

### 【作者名】

ごはんライス

### 【あらすじ】

うーむ。ショートコントです。あらすじ、なし。

「なんか臭いわねえ」

「くんくん。くさつ。わかった！ほら前をくらん。夜兔がいるわ」  
ルーチ力は指を指した。

「あいつが来たからよ！」

夜兔は沈んだ表情で席に着く。背中には「あたし、くっさくさ女」と書かれた紙が貼られている。

課長が鼻をつまみながら、夜兔に近寄った。

「うっ。くさい。夜兔くん。これ、午前中にやっといてくれたまえ。あぶ。くさい！」

課長は夜兔の机の上に書類を置き、走って去った。

夜兔はため息をついた。

ルーチ力がキレた。

「夜兔さん！いいかげんにしてちょうだい！臭くて仕事ができないじゃないの！」

夜兔はうつろな目をしてる。

その時、夜兔はぷつと屁をこいてしまった。

「あら？」

ルーチ力は目を白黒させている。

「すんげえいい匂い。バラの香り！」

夜兔の屁の匂いとは気づかないルーチ力。

「夜兔。あんた、もう退職しなよ。臭すぎてやだ」

その時、ルーチ力も屁をこいてしまった。

しかも、すかしっ屁！

「なんかさらに臭いわねえ」

シー子が不思議がる。

ルーチ力はあわてる。このままじゃ、あたしが屁をこいたのがバレてしまう。

「夜兔！あんた屁こいたでしょ！」

夜兔はまた屁をこいた。今度はすかしっ屁だ。

「あれええ。またいい匂い。今度はシトラスミントの香りだ」

何はともあれ、職場がいい匂いになってきたので、ルーチ力は席に戻った。

「ふん。夜兔さえ辞めてくれれば最高なんだけどな」

夜兔は暗い顔をして、パソコンをかたかた打ち始めた。夜兔の回りに蠅はえが群がってきた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6512j/>

---

臭いにおいの女

2010年11月23日09時51分発行